

【災害に備える】

状況に応じた備えを考えよう

災害時に必要なものは、家族構成や被災の状況で必要な備えが3段階に分かれます。
家族構成などの状況に応じた、備えや備蓄などを考えましょう



常時携行品	非常持出品	家庭内での備蓄品
外出先で被災した場合に役立つ防災グッズ	避難の際に緊急的に自宅から持ち出す物（1日～3日分）	被災後の数日を乗り切るための食料など（3日～2週間分）
いつも持ち歩くバッグなどに入れ、常に持ち歩く	リュックサックなどに入れ、玄関など持ち出しやすい場所におく	運びやすい収納ケースなどに入れ、台所や押し入れに入れておく
地図、笛、携帯食料、水など	下記参照	避難生活用の食料、水、燃料など

●非常時持出品



●家庭内での備蓄品

ローリングストック法を使って備蓄をしましょう。始めの3日間は冷蔵庫内のものを使い、その後は備蓄しておいた食料を使います。



食べながら備える ローリングストック法とは

ローリングストック法は、保存食を日常的に消費し、食べた分だけ買い足していく備蓄方法です。

日々から食べ慣れている賞味期限が1年程度のものを意識的にストックして、月に1、2度食べるときに防災について考えるきっかけにしましょう。



■家族の構成を考えて、非常時持出品、備蓄品を準備しましょう

乳幼児のいる家庭

ミルク、哺乳びん、離乳食、おむつ、洗浄器、バスタオル、ガーゼ、母子手帳、おもちゃなど



高齢者がいる家庭

常備薬、介護用品、入れ歯、補聴器、大人用紙おむつなど



【防災マップ編】防災マップの見方



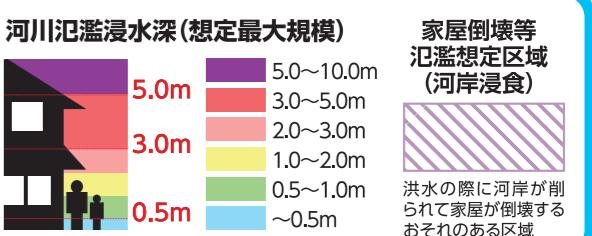
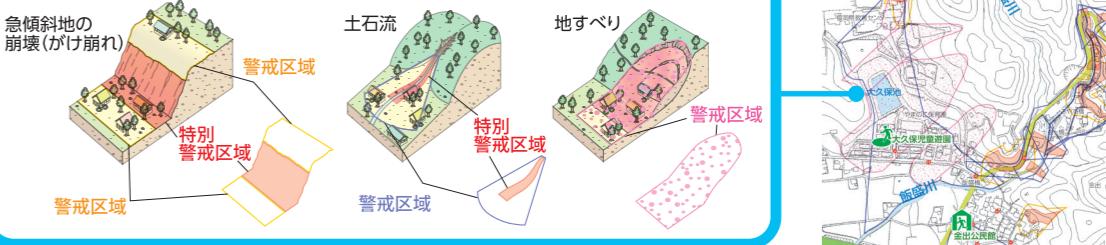
防災関連施設

○	町役場
⊗	警察
●	病院
H	消火栓
■	自然水利等

基本情報

—	鉄道
000	国道
000	主要地方道・県道
!	アンダーパス*
○	水域
- - -	町境

土砂災害警戒区域等



*アンダーパス:鉄道や道路との交差部を立体交差するため、道路を掘り下げ、くぐり抜ける方式とした道路で、防災マップでは大雨などで冠水しやすい場所を示しています。

多々良川の浸水想定区域【河川氾濫浸水深(想定最大規模)】について

この図は、水防法の規定により指定された『想定し得る最大規模の降雨（1年間の発生確率が1/1,000程度の降雨）』によって洪水浸水想定区域で浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。

- この洪水浸水想定区域等は、平成30年4月の多々良川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、予測されたものです。
- 予測にあたっては、支川の氾濫、予測の前提を超える規模の降雨による氾濫や内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生したり、想定される浸水深と異なったりする場合があります。

- 算出の前提となる降雨『想定し得る最大規模の降雨』:流域全体に667mm/9時間の降雨
- 作成:福岡県(平成30年4月27日公表)

測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 984

